

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2017年1月18日（当初設定日）から無期限です。	
運用方針	世界主要市場のバイオ医薬品関連企業の株式に投資することにより、信託財産の積極的な成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券
	マザーファンド	世界のバイオ医薬品関連企業の株式
運用方法	①主として、マザーファンド受益証券に投資します。 ②実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主な投資制限	当ファンド	①株式への実質投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	①株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。また、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	



PICTET

ピクテ・バイオ医薬品 ファンド(1年決算型) 為替ヘッジなしコース

運用報告書(全体版)

第7期

決算日：2023年4月13日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなしコース」は、2023年4月13日に第7期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		参考指数	株組入比率	純資産額
		税込み 分配金	騰落 中率			
	円	円	%		%	百万円
3期(2019年4月15日)	11,080	0	6.2	12,048	97.7	2,944
4期(2020年4月13日)	10,767	0	△ 2.8	11,947	99.1	2,828
5期(2021年4月13日)	13,324	0	23.7	15,563	99.2	3,024
6期(2022年4月13日)	14,926	0	12.0	16,133	99.2	2,750
7期(2023年4月13日)	16,354	0	9.6	17,126	98.2	8,631

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数を委託者が円換算し、設定日(2017年1月18日)を10,000として指数化したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数	株組入比率
	騰落率	騰落率		
(期首) 2022年4月13日	円	%	%	%
	14,926	—	16,133	99.2
4月末	14,487	△ 2.9	15,334	98.6
5月末	14,551	△ 2.5	15,015	99.2
6月末	15,248	2.2	15,931	97.9
7月末	15,268	2.3	16,306	99.6
8月末	15,193	1.8	16,479	99.5
9月末	15,475	3.7	16,867	99.8
10月末	17,339	16.2	18,928	99.8
11月末	16,671	11.7	18,024	100.1
12月末	16,340	9.5	17,190	98.5
2023年1月末	16,397	9.9	17,344	97.9
2月末	16,182	8.4	17,099	98.7
3月末	16,023	7.3	16,755	99.3
(期末) 2023年4月13日	16,354	9.6	17,126	98.2

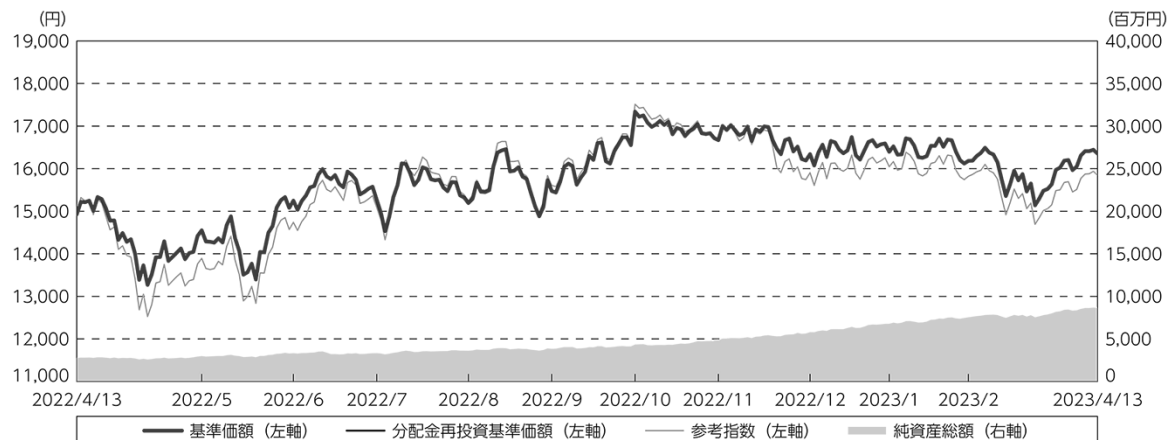
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数を委託者が円換算し、設定日(2017年1月18日)を10,000として指数化したものです。

基準価額等の推移

当期の基準価額は、9.6%の上昇となりました。



期首：14,926円

期末：16,354円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：9.6% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首(2022年4月13日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数を委託者が円換算したものです。

◇主な変動要因

【当期前半】

上昇↑・円に対して米ドルが上昇したこと

下落↓・実質的に組入れているイルミナ(米国、医薬品・バイオテクノロジー)やホライゾン・セラピューティクス(米国、医薬品・バイオテクノロジー)などの株価が下落したこと

【当期後半】

上昇↑・実質的に組入れているギリアド・サイエンシズ(米国、医薬品・バイオテクノロジー)やマドリガル・ファーマシューティカルズ(米国、医薬品・バイオテクノロジー)などの株価が上昇したこと

下落↓・円に対して米ドルが下落したこと

- ・ バイオ医薬品関連株式市場は、期首から2022年6月中旬にかけては、米連邦準備制度理事会（FRB）をはじめとする主要中央銀行が金融引き締め姿勢を強めるとの観測から投資家のリスク回避姿勢が高まるなか、財務面や治験面でリスクがあるとみなされたバイオ医薬品企業を中心に下落しました。8月中旬にかけては、FRBの金融引き締め観測が一時後退したことや、市場予想を上回る企業業績などが好感され世界の株式市場が堅調に推移するなか、バイオ医薬品株式も上昇しました。10月にかけては、FRBのパウエル議長がインフレ対策を重視し、積極的な利上げを継続する姿勢を示したことなどから世界の株式市場は大幅に下落しましたが、バイオ医薬品に関する良好な治験結果などを背景に、バイオ医薬品関連株式市場の下落幅は小幅にとどまりました。2023年1月末にかけては、2022年10月や11月の米消費者物価指数（CPI）の伸びが市場予想以上に鈍化し、FRBが利上げペースを減速させるとの見方が強まったことや、中国の経済活動正常化に向けた動きへの期待などを背景に、収益性が高い優良企業を中心に上昇しました。その後は、金融引き締め継続の必要性について金融当局者の発言が相次いだことなどを受けて、欧米長期金利が大きく上昇したことや、米地銀の破綻を受けた金融不安を背景に世界的にリスク回避姿勢が強まったことなどから株式市場が下落するなか、バイオ医薬品関連株式市場についても2023年3月中旬にかけて下落しました。3月下旬から期末にかけては、主要中央銀行による流動性供給や政府による金融不安への対策が好感されたことなどを材料に上昇しました。
- ・ 為替市場は、FRBが高止まりするインフレを受けて金融引き締め姿勢を加速させた一方、日本銀行は緩和的な金融政策を維持するとの見方が強まったことから、日米金利差の拡大が意識され、前期末から2022年7月中旬にかけて大幅な米ドル高・円安となりました。その後8月上旬にかけては、景気の先行きを示唆する景況感指数が米国で急速に悪化したことや、米4-6月期GDP（国内総生産）が市場予想に反しマイナス成長となったことなどから、米ドルが円に対して下落しました。10月にかけては、日本の財務省・日本銀行により約24年ぶりとなるドル売り・円買いの為替介入が行われ、一時的に米ドル安・円高となる局面もありましたが、良好な米雇用指標などを背景にFRBによる積極的な利上げの継続観測が高まったことなどから、大幅に米ドル高・円安が進行しました。2023年1月中旬にかけては、財務省・日本銀行による為替介入の実施や、日本銀行によるイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）政策の長期金利の許容変動幅拡大などを受けて、米ドル安・円高が進行しました。その後は、日本政府が日本銀行の次期総裁に起用する方針を固めた植田氏が当面は金融緩和の継続が必要との考えを示したことなどから、3月上旬にかけて米ドル高・円安となりました。その後は期末にかけて、米地銀の破綻をきっかけとして金融不安への懸念が強まったことや、米金利が低下したことなどから、米ドル安・円高が進行しました。

組入状況

当ファンドが主要投資対象とするピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。実質的な外貨建資産につきましては原則として為替ヘッジを行いませんでした。

<マザーファンドの組入状況>

主に世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいりました。

◇国・地域別組入比率

【期首】

国・地域名	組入比率
米国	84.8%
英国	5.9%
フランス	4.9%
スペイン	1.6%
ドイツ	1.5%
中国	0.6%
オランダ	0.4%

【期末】

国・地域名	組入比率
米国	85.9%
英国	5.0%
フランス	3.6%
中国	1.4%
ドイツ	1.4%
スペイン	1.0%
オランダ	0.5%

◇業種別組入比率

【期首】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	76.5%
医薬品	17.6%
ライフサイエンス関連	5.6%

【期末】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	77.9%
医薬品	14.6%
ライフサイエンス関連	5.8%
ヘルスケア・サービス	0.4%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄

【期首】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	9.0%
ギリアド・サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	7.4%
リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	7.0%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	5.9%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	4.9%
パーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	4.6%
イルミナ	米国	ライフサイエンス関連	3.7%
パイオジェン	米国	バイオテクノロジー	3.6%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	3.5%
ジャズ・ファーマシューティカルズ	米国	医薬品	3.4%

【期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
ギリアド・サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	8.1%
リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	7.3%
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	6.5%
パーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	6.0%
パイオジェン	米国	バイオテクノロジー	5.3%
モデルナ	米国	バイオテクノロジー	5.0%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	4.7%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	3.6%
イルミナ	米国	ライフサイエンス関連	3.4%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	2.9%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

期末の組入上位銘柄は、

- ギリアド・サイエンシズ : HIVやC型肝炎など感染症治療薬の分野に強みを持つ。エイズ/HIV感染者の治療のパイオニアであり、患者が通常の生活を送れるレベルまで病気を抑制する治療薬を提供するだけでなく、感染しないための予防薬も提供。また、途上国などに向けて安価な治療薬も提供している。エイズ/HIV感染者治療におけるリーダーシップにより、患者や医師から多くの信頼を獲得している。
- リジェネロン・ファーマシューティカルズ : がん、眼病や慢性炎症などの治療薬の研究開発、商品化などを手掛けるバイオ医薬品メーカー。複数の疾患領域で治療に変革をもたらした、非常に革新的な企業で特に、治療しなければ失明に至る可能性のある加齢黄斑変性症 (AMD) の治療で大きな役割を果たしている。また、有効性の高い皮膚疾患の治療薬を有し、がん領域でも非常に有望なパイプライン (新薬候補) の開発に取り組んでいる。同社の革新性の高さが、画期的な治療薬を生み出し、大きな市場の獲得につながることを繰り返し示してきた。
- アムジェン : 関節リウマチ、骨粗しょう症の治療薬や白血球生成促進剤などが主力のバイオ医薬品企業。バイオシミラー (バイオ後続品) にも取り組む。がん、骨粗しょう症、腎臓病、炎症など様々な疾患をターゲットとした医薬品の強力なポートフォリオを有しており、人々の健康で長生きする生活に貢献している。また経験豊富で大規模な研究開発チームを持ち、他のバイオテクノ

ロジ企業や学術機関、政府機関との良好なパートナーシップを確立している。強力な医薬品ポートフォリオ、最高の研究開発能力、強力な製造およびサプライチェーン能力、そして確立されたブランドが、同社の成長維持に貢献している。

- バーテックス・ファーマシューティカルズ : 治療法の限られた、または治療法のない疾患に向けた治療薬の発見・開発および商品化に注力。嚢胞性線維症治療薬のパイオニア。2012年に米食品医薬品局 (FDA) から承認を受けたカリデコ以降、オルカンビ、シムデコ、トリカフタといった嚢胞性線維症 (CF) 治療薬を次々と上市することで、CF患者の生活の質を大きく改善し、更に治療や通院にかかる費用の削減にも貢献。このような革新的技術を有することで、同社は数十億ドル規模のCF市場で存在感を示し、利益を獲得している。
- バイオジェン : 神経系領域におけるリーディングカンパニーで、同社の多発性硬化症治療薬は市場をリード。現在、アルツハイマー病治療薬でも注目を集める。神経系領域におけるリーディングカンパニーである同社は多発性硬化症の治療を長年リードし多くの患者を救ってきた。エーザイと共同で開発したアルツハイマー病治療薬は、病気の進行を遅らせ、医療費コストの削減や患者の生活の質向上を実現することで、同社は数十億ドル規模の新しい市場から利益を獲得することが期待される。

などとなりました。

収益分配金

当期の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、見送りとさせていただきます。

なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

◇分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第7期
	2022年4月14日～ 2023年4月13日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,353

(注) 対基準価額比率は当期分配金 (税込み) の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(1) 投資環境

株式市場は、主要国・地域の中央銀行の金融引き締め政策の継続による景気悪化懸念などの要因から株価変動が大きくなることも考えられます。規模の小さな中小型の銘柄が多いバイオ医薬品企業の株価はさらに変動が大きくなる可能性もあります。しかしながら、バイオ医薬品企業のファンダメンタルズ（基礎的条件）は健全であるとみており、イノベーションが急速に進み、長期的な株主価値増大の機会を生み出す、市場でも数少ない分野の一つであると考えています。バイオ医薬品企業を含む医薬品業界が、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）に対して重要な役割を果たしており、その技術面での社会的貢献度の高さも価値の増大につながるものと考えます。また、世界的に経済活動正常化の動きが広がるなか、通院や治療に人が戻ってくることは、業績面や臨床試験などの面でバイオ医薬品企業にとってプラスに働くものと考えます。加えて、バイオ医薬品関連企業は、多くの画期的な治療薬を提供し続け、相対的に高い利益成長が期待されます。今後も魅力的な新薬候補や高い技術力を求めて、大手医薬品企業がバイオ医薬品関連企業を買収する動きは継続すると考えています。企業価値を計る上で、薬価引き下げの動きや治験結果の発表、決算の内容などの株価に影響を与える要因や可能性なども併せて注視していくことが必要と考えています。

(2) 投資方針

ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券への投資を通じて世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

<マザーファンド>

世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。

○1万口当たりの費用明細

(2022年4月14日～2023年4月13日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 329	% 2.090	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(173)	(1.100)	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価 ・購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価 ・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(139)	(0.880)	
（ 受 託 会 社 ）	(17)	(0.110)	
(b) 売 買 委 託 手 数 料	0	0.003	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(0)	(0.003)	・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	2	0.014	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(2)	(0.014)	・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	6	0.040	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(3)	(0.021)	<ul style="list-style-type: none"> ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、信託事務の処理等に要する諸費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.009)	
（ そ の 他 ）	(2)	(0.010)	
合 計	337	2.147	
期中の平均基準価額は、15,764円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

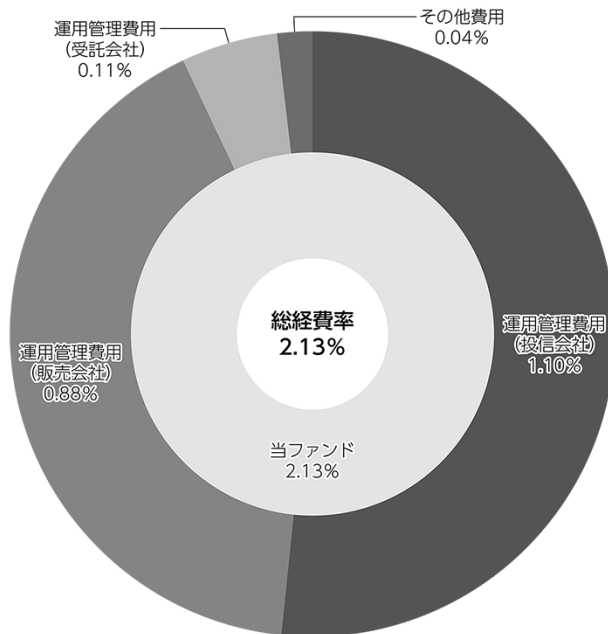
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.13%です。



(注) 上記の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年4月14日～2023年4月13日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド	730,669 千口	6,282,370 千円	102,111 千口	868,660 千円

(注) 単位未満は切り捨てています。

○株式売買比率

(2022年4月14日～2023年4月13日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	142,170,946千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	93,861,444千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.51

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2022年4月14日～2023年4月13日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2022年4月14日～2023年4月13日)

該当事項はございません。

○特定資産の価格等の調査

(2022年4月14日～2023年4月13日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2023年4月13日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド		348,365	976,924	8,590,975

(注) 単位未満は切り捨てています。

○投資信託財産の構成

(2023年4月13日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド	8,590,975	98.6
コール・ローン等、その他	122,365	1.4
投資信託財産総額	8,713,340	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) ピクテ・バイオ医薬品マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(156,023,861千円)の投資信託財産総額(157,969,477千円)に対する比率は98.8%です。

(注) ピクテ・バイオ医薬品マザーファンドにおける外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=133.32円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年4月13日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	8,713,340,419
コール・ローン等	122,365,220
ビクテ・バイオ医薬品マザーファンド(評価額)	8,590,975,199
(B) 負債	81,839,128
未払解約金	17,862,271
未払信託報酬	63,803,799
未払利息	335
その他未払費用	172,723
(C) 純資産総額(A-B)	8,631,501,291
元本	5,277,995,397
次期繰越損益金	3,353,505,894
(D) 受益権総口数	5,277,995,397口
1万口当たり基準価額(C/D)	16,354円

<注記事項(当運用報告書作成時点では、監査未了です。)>

(貸借対照表関係)

(注) 期首元本額	1,842,617,037円
期中追加設定元本額	4,866,556,105円
期中一部解約元本額	1,431,177,745円
(注) 1口当たり純資産額	1.6354円

○損益の状況 (2022年4月14日～2023年4月13日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 30,554
支払利息	△ 30,554
(B) 有価証券売買損益	300,448,615
売買益	439,733,087
売買損	△ 139,284,472
(C) 信託報酬等	△ 98,533,169
(D) 当期損益金(A+B+C)	201,884,892
(E) 前期繰越損益金	228,119,037
(F) 追加信託差損益金	2,923,501,965
(配当等相当額)	(1,298,723,892)
(売買損益相当額)	(1,624,778,073)
(G) 計(D+E+F)	3,353,505,894
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	3,353,505,894
追加信託差損益金	2,923,501,965
(配当等相当額)	(1,301,622,449)
(売買損益相当額)	(1,621,879,516)
分配準備積立金	430,003,929

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(25,881,693円)、費用控除後の有価証券等損益額(176,003,199円)、信託約款に規定する収益調整金(2,923,501,965円)および分配準備積立金(228,119,037円)より分配対象収益は3,353,505,894円(10,000口当たり6,353円)ですが、当期に分配した金額はありません。

(注) 主要投資対象であるマザーファンド受益証券において、信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用

当該マザーファンド受益証券に係る信託財産の純資産総額のうち、当ファンドに対応する部分の年率0.50%以内の額

○お知らせ

委託者の商号変更に伴い所要の約款変更を行いました。

ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド

運用状況のご報告

第23期（決算日：2023年4月13日）
（計算期間：2022年4月14日～2023年4月13日）

受益者のみなさまへ

「ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド」は、「ピクテ・バイオ医薬品ファンド（1年決算型）円コース」、「ピクテ・バイオ医薬品ファンド（毎月決算型）為替ヘッジなしコース」、「iTrustバイオ」、「ピクテ・バイオ医薬品ファンドⅡ（適格機関投資家専用）」および「ピクテ・バイオ医薬品ファンド（1年決算型）為替ヘッジなしコース」が投資対象とするマザーファンドで、信託財産の実質的な運用を行っております。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第23期の運用状況をご報告申し上げます。

●当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	世界主要市場のバイオ医薬品関連企業の株式に投資することにより、信託財産の積極的な成長を目指します。
主要投資対象	世界のバイオ医薬品関連企業の株式
主な投資制限	株式への投資割合…制限を設けません。 外貨建資産への投資割合…制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株組入比率	純資産額
	期騰落	中率	期騰落	中率		
	円	%		%	%	百万円
19期(2019年4月15日)	54,640	8.4	37,476	8.4	98.1	77,309
20期(2020年4月13日)	54,327	△ 0.6	37,162	△ 0.8	99.5	76,832
21期(2021年4月13日)	68,681	26.4	48,408	30.3	99.7	66,765
22期(2022年4月13日)	78,594	14.4	50,180	3.7	99.7	60,952
23期(2023年4月13日)	87,939	11.9	53,269	6.2	98.7	157,955

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数を委託者が円換算し、設定日(2000年4月14日)を10,000として指数化したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株組入比率
	騰落	率	騰落	率	
(期首) 2022年4月13日	円	%		%	%
	78,594	—	50,180	—	99.7
4月末	76,339	△ 2.9	47,695	△ 5.0	99.0
5月末	76,821	△ 2.3	46,705	△ 6.9	99.4
6月末	80,647	2.6	49,553	△ 1.3	98.0
7月末	80,888	2.9	50,719	1.1	99.5
8月末	80,649	2.6	51,257	2.1	99.3
9月末	82,288	4.7	52,466	4.6	99.4
10月末	92,380	17.5	58,876	17.3	100.2
11月末	88,962	13.2	56,064	11.7	100.3
12月末	87,347	11.1	53,469	6.6	98.5
2023年1月末	87,814	11.7	53,949	7.5	97.9
2月末	86,803	10.4	53,188	6.0	98.5
3月末	86,100	9.6	52,115	3.9	99.0
(期末) 2023年4月13日	87,939	11.9	53,269	6.2	98.7

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数を委託者が円換算し、設定日(2000年4月14日)を10,000として指数化したものです。

基準価額等の推移

当期の基準価額は、11.9%の上昇となりました。



◇主な変動要因

【当期中前半】

上昇↑・円に対して米ドルが上昇したこと

下落↓・組入れているイルミナ（米国、医薬品・バイオテクノロジー）やホライゾン・セラピューティクス（米国、医薬品・バイオテクノロジー）などの株価が下落したこと

【当期中後半】

上昇↑・組入れているギリアド・サイエンシズ（米国、医薬品・バイオテクノロジー）やマドリガル・ファーマシューティカルズ（米国、医薬品・バイオテクノロジー）などの株価が上昇したこと

下落↓・円に対して米ドルが下落したこと

投資環境

・バイオ医薬品関連株式市場は、期首から2022年6月中旬にかけては、米連邦準備制度理事会（FRB）をはじめとする主要中央銀行が金融引き締め姿勢を強めるとの観測から投資家のリスク回避姿勢が高まるなか、財務面や治験面でリスクがあるとみなされたバイオ医薬品企業を中心に下落しました。8月中旬にかけては、FRBの金融引き締め観測が一時後退したことや、市場予想を上回る企業業績などが好感され世界の株式市場が堅調に推移するなか、バイオ医薬品株式も上昇しました。10月にかけては、FRBのパウエル議長がインフレ対策を重視し、積極的な利上げを継続する姿勢を示したことなどから世界の株式市場は大幅に下落しましたが、バイオ医薬品に関する良好な治験結果などを背景に、バイオ医薬品関連株式市場の下落幅は小幅にとどまりました。2023年1月末にかけては、2022年10月や11月の米消費者物価指数（CPI）の伸びが市場予想以上に鈍化し、FRBが利上げペースを減速させるとの見方が強まったことや、中国の経済活動正常化

に向けた動きへの期待などを背景に、収益性が高い優良企業を中心に上昇しました。その後は、金融引き締め継続の必要性について金融当局者の発言が相次いだことなどを受けて、欧米長期金利が大きく上昇したことや、米地銀の破綻を受けた金融不安を背景に世界的にリスク回避姿勢が強まったことなどから株式市場が下落するなか、バイオ医薬品関連株式市場についても2023年3月中旬にかけて下落しました。3月下旬から期末にかけては、主要中央銀行による流動性供給や政府による金融不安への対策が好感されたことなどを材料に上昇しました。

- ・為替市場は、FRBが高止まりするインフレを受けて金融引き締め姿勢を加速させた一方、日本銀行は緩やかな金融政策を維持するとの見方が強まったことから、日米金利差の拡大が意識され、前期末から2022年7月中旬にかけて大幅な米ドル高・円安となりました。その後8月上旬にかけては、景気の先行きを示唆する景況感指数が米国で急速に悪化したことや、米4-6月期GDP（国内総生産）が市場予想に反しマイナス成長となったことなどから、米ドルが円に対して下落しました。10月にかけては、日本の財務省・日本銀行により約24年ぶりとなるドル売り・円買いの為替介入が行われ、一時的に米ドル安・円高となる局面もありましたが、良好な米雇用指標などを背景にFRBによる積極的な利上げの継続観測が高まったことなどから、大幅に米ドル高・円安が進行しました。2023年1月中旬にかけては、財務省・日本銀行による為替介入の実施や、日本銀行によるイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）政策の長期金利の許容変動幅拡大などをを受けて、米ドル安・円高が進行しました。その後は、日本政府が日本銀行の次期総裁に起用する方針を固めた植田氏が当面は金融緩和の継続が必要との考えを示したことなどから、3月上旬にかけて米ドル高・円安となりました。その後は期末にかけて、米地銀の破綻をきっかけとして金融不安への懸念が強まったことや、米金利が低下したことなどから、米ドル安・円高が進行しました。

組入状況

主に世界のバイオテクノロジー関連企業の株式に投資を行ってまいりました。

◇国・地域別組入比率

【期首】

国・地域名	組入比率
米国	84.8%
英国	5.9%
フランス	4.9%
スペイン	1.6%
ドイツ	1.5%
中国	0.6%
オランダ	0.4%

【期末】

国・地域名	組入比率
米国	85.9%
英国	5.0%
フランス	3.6%
中国	1.4%
ドイツ	1.4%
スペイン	1.0%
オランダ	0.5%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◇業種別組入比率

【期首】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	76.5%
医薬品	17.6%
ライフサイエンス関連	5.6%

【期末】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	77.9%
医薬品	14.6%
ライフサイエンス関連	5.8%
ヘルスケア・サービス	0.4%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄

【期首】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	9.0%
ギリアド・サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	7.4%
リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	7.0%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	5.9%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	4.9%
パーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	4.6%
イルミナ	米国	ライフサイエンス関連	3.7%
バイオジェン	米国	バイオテクノロジー	3.6%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	3.5%
ジャズ・ファーマシューティカルズ	米国	医薬品	3.4%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
ギリアド・サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	8.1%
リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	7.3%
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	6.5%
パーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	6.0%
バイオジェン	米国	バイオテクノロジー	5.3%
モデルナ	米国	バイオテクノロジー	5.0%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	4.7%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	3.6%
イルミナ	米国	ライフサイエンス関連	3.4%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	2.9%



期末の組入上位銘柄は、

- ギリアド・サイエンシズ : HIVやC型肝炎など感染症治療薬の分野に強みを持つ。
エイズ/HIV感染者の治療のパイオニアであり、患者が通常の生活を送れるレベルまで病気を抑制する治療薬を提供するだけでなく、感染しないための予防薬も提供。また、途上国などに向けて安価な治療薬も提供している。エイズ/HIV感染者治療におけるリーダーシップにより、患者や医師から多くの信頼を獲得している。
- リジェネロン・ファーマシューティカルズ : がん、眼病や慢性炎症などの治療薬の研究開発、商品化などを手掛けるバイオ医薬品メーカー。
複数の疾患領域で治療に変革をもたらした、非常に革新的な企業で特に、治療しなければ失明に至る可能性のある加齢黄斑変性症 (AMD) の治療で大きな役割を果たしている。また、有効性の高い皮膚疾患の治療薬を有し、がん領域でも非常に有望なパイプライン (新薬候補) の開発に取り組んでいる。同社の革新性の高さが、画期的な治療薬を生み出し、大きな市場の獲得につながることを繰り返し示してきた。
- アムジェン : 関節リウマチ、骨粗しょう症の治療薬や白血球生成促進剤などが主力のバイオ医薬品企業。バイオシミラー (バイオ後続品) にも取り組む。
がん、骨粗しょう症、腎臓病、炎症など様々な疾患をターゲットとした医薬品の強力なポートフォリオを有しており、人々の健康で長生きする生活に貢献している。また経験豊富で大規模な研究開発チームを持ち、他のバイオテクノ

ロジ企業や学術機関、政府機関との良好なパートナーシップを確立している。強力な医薬品ポートフォリオ、最高の研究開発能力、強力な製造およびサプライチェーン能力、そして確立されたブランドが、同社の成長維持に貢献している。

- バーテックス・ファーマシューティカルズ : 治療法の限られた、または治療法のない疾患に向けた治療薬の発見・開発および商品化に注力。嚢胞性線維症治療薬のパイオニア。2012年に米食品医薬品局（FDA）から承認を受けたカリデコ以降、オルカンビ、シムデコ、トリカフタといった嚢胞性線維症（CF）治療薬を次々と上市することで、CF患者の生活の質を大きく改善し、更に治療や通院にかかる費用の削減にも貢献。このような革新的技術を有することで、同社は数十億ドル規模のCF市場で存在感を示し、利益を獲得している。
- バイオジェン : 神経系領域におけるリーディングカンパニーで、同社の多発性硬化症治療薬は市場をリード。現在、アルツハイマー病治療薬でも注目を集める。神経系領域におけるリーディングカンパニーである同社は多発性硬化症の治療を長年リードし多くの患者を救ってきた。エーザイと共同で開発したアルツハイマー病治療薬は、病気の進行を遅らせ、医療費コストの削減や患者の生活の質向上を実現することで、同社は数十億ドル規模の新しい市場から利益を獲得することが期待される。

などとなりました。

○今後の運用方針

（１）投資環境

株式市場は、主要国・地域の中央銀行の金融引き締め政策の継続による景気悪化懸念などの要因から株価変動が大きくなることも考えられます。規模の小さな中小型の銘柄が多いバイオ医薬品企業の株価はさらに変動が大きくなる可能性もあります。しかしながら、バイオ医薬品企業のファンダメンタルズ（基礎的条件）は健全であるとみており、イノベーションが急速に進み、長期的な株主価値増大の機会を生み出す、市場でも数少ない分野の一つであると考えています。バイオ医薬品企業を含む医薬品業界が、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）に対して重要な役割を果たしており、その技術面での社会的貢献度の高さも価値の増大につながるものと考えます。また、世界的に経済活動正常化の動きが広がるなか、通院や治療に人が戻ってくることは、業績面や臨床試験などの面でバイオ医薬品企業にとってプラスに働くものと考えます。加えて、バイオ医薬品関連企業は、多くの画期的な治療薬を提供し続け、相対的に高い利益成長が期待されます。今後も魅力的な新薬候補や高い技術力を求めて、大手医薬品企業がバイオ医薬品関連企業を買収する動きは継続すると考えています。企業価値を計る上で、薬価引き下げの動きや治験結果の発表、決算の内容などの株価に影響を与える要因や可能性なども併せて注視していくことが必要と考えています。

（２）投資方針

世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。

○1万口当たりの費用明細

(2022年4月14日～2023年4月13日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 3 (3)	% 0.003 (0.003)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	11 (11)	0.013 (0.013)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	26 (18) (8)	0.031 (0.021) (0.010)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・その他は、信託事務の処理等に要する諸費用
合 計	40	0.047	
期中の平均基準価額は、83,919円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年4月14日～2023年4月13日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	アメリカ	百株 231,012 (4,757)	千米ドル 845,255 ()	百株 70,556	千米ドル 203,719

(注) 金額は受渡代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2022年4月14日～2023年4月13日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	142,170,946千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	93,861,444千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.51

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2022年4月14日～2023年4月13日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○特定資産の価格等の調査

(2022年4月14日～2023年4月13日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2023年4月13日現在)

外国株式

銘柄	株数	期末			業種等
		株数	評価額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ…米国店頭市場)	百株	百株	千米ドル	千円	
ACADIA PHARMACEUTICALS INC	1,014	4,390	8,052	1,073,609	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ADAPTIVE BIOTECHNOLOGIES	1,395	9,472	7,724	1,029,848	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
AGIOS PHARMACEUTICALS INC	1,178	3,499	7,482	997,576	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ALNYLAM PHARMACEUTICALS INC	545	1,056	21,442	2,858,758	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
AMGEN INC	1,751	3,067	76,527	10,202,598	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
AMICUS THERAPEUTICS INC	3,883	12,741	14,079	1,877,040	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ARCTURUS THERAPEUTICS HOLDING	482	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ASTRAZENECA PLC-SPONS ADR	4,187	7,583	55,934	7,457,127	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BEAM THERAPEUTICS INC	136	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BEIGENE LTD-ADR	146	525	13,395	1,785,884	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BIOMARIN PHARMACEUTICAL INC	1,465	2,849	27,911	3,721,128	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BIOGEN INC	828	2,213	63,267	8,434,762	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BIONTECH SE-ADR	438	1,272	16,004	2,133,725	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BLUEBIRD BIO INC	3,027	15,753	4,395	585,960	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BLUEPRINT MEDICINES CORP	—	2,879	12,611	1,681,418	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BRIDGEBIO PHARMA INC	879	7,286	11,060	1,474,561	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CHIMMERIX INC	3,115	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
COHERUS BIOSCIENCES INC	1,206	4,229	3,256	434,167	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CYTOX THERAPEUTICS INC	3,531	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
EDITAS MEDICINE INC	1,051	5,238	3,331	444,150	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ENANTA PHARMACEUTICALS INC	—	1,367	5,005	667,300	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ESPERION THERAPEUTICS INC	1,915	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
EXELIXIS INC	1,744	5,043	9,830	1,310,613	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
FIBROGEN INC	2,040	5,447	10,197	1,359,552	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
GILEAD SCIENCES INC	5,803	11,629	95,549	12,738,608	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
GLOBAL BLOOD THERAPEUTICS INC	475	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
GRIFOLS SA-ADR	6,969	15,907	11,899	1,586,398	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
GUARDANT HEALTH INC	—	1,930	4,727	630,227	ヘルスケア機器・サービ
HALOZYME THERAPEUTICS INC	2,185	1,044	3,797	506,252	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ILLUMINA INC	523	1,767	40,109	5,347,420	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
IMMUNITYBIO INC	4,101	12,001	1,836	244,810	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
IMMUNOCORE HOLDINGS PLC-ADR	—	558	2,803	373,764	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
INCYTE CORP	2,136	4,613	34,111	4,547,712	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
INTELLIA THERAPEUTICS INC	294	689	2,384	317,882	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
INTERCEPT PHARMACEUTICALS INC	1,409	3,524	5,702	760,291	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
IONIS PHARMACEUTICALS INC	1,979	5,571	20,385	2,717,730	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
IOVANCE BIOTHERAPEUTICS INC	—	4,745	2,553	340,370	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
IRONWOOD PHARMACEUTICALS INC	9,679	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
LIGAND PHARMACEUTICALS	—	440	3,170	422,751	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
MADRIGAL PHARMACEUTICALS INC	—	517	12,493	1,665,617	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
MEDPACE HOLDINGS INC	—	541	10,272	1,369,464	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
MODERNA INC	1,019	3,804	59,179	7,889,815	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
MYRIAD GENETICS INC	1,577	4,368	9,780	1,303,967	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
NEKTAR THERAPEUTICS	—	18,461	1,726	230,132	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
NEUROCRINE BIOSCIENCES INC	586	990	10,195	1,359,320	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
NOVAVAX INC	422	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PTC THERAPEUTICS INC	—	2,552	12,258	1,634,291	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PACIFIC BIOSCIENCES OF CALIF	1,183	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PACIRA BIOSCIENCES INC	647	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス

銘	柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
		株 数	株 数	評 価 額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ…米国店頭市場)		百株	百株	千米ドル	千円	
PARATEK PHARMACEUTICALS INC		4,262	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PROMETHEUS BIOSCIENCES INC		—	279	3,142	419,009	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PROVENTION BIO INC		—	3,852	9,348	1,246,392	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
RADIUS HEALTH INC		3,321	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
REGENERON PHARMACEUTICALS		471	1,060	87,036	11,603,657	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SANOFI-ADR		4,260	7,570	42,240	5,631,561	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SAREPTA THERAPEUTICS INC		759	2,151	29,622	3,949,277	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SEAGEN INC		317	1,560	32,026	4,269,730	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SUPERNUS PHARMACEUTICALS INC		1,074	3,048	11,104	1,480,483	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SYNEOS HEALTH INC		797	2,491	10,026	1,336,735	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TRAVERE THERAPEUTICS INC		3,089	7,811	15,950	2,126,557	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TWIST BIOSCIENCE CORP		182	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ULTRAGENYX PHARMACEUTICAL INC		—	1,657	6,212	828,301	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
UNITED THERAPEUTICS CORP		846	749	16,930	2,257,232	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VANDA PHARMACEUTICALS INC		2,147	6,189	4,196	559,496	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VERTEX PHARMACEUTICALS INC		794	2,168	70,758	9,433,542	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VIATRIS INC		3,013	17,339	17,027	2,270,053	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VIR BIOTECHNOLOGY INC		404	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ZAI LAB LTD-ADR		—	896	3,209	427,900	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ALKERMES PLC		4,550	9,696	28,090	3,745,060	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ENDO INTERNATIONAL PLC		3,418	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
HORIZON THERAPEUTICS PLC		1,349	2,511	27,542	3,671,967	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
JAZZ PHARMACEUTICALS PLC		1,029	1,062	15,302	2,040,081	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ROYALTY PHARMA PLC- CL A		—	2,307	8,333	1,111,012	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
THERAVANCE BIOPHARMA INC		1,838	7,321	8,434	1,124,483	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
UNIQURE NV		1,153	3,196	5,904	787,186	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
(アメリカ…非上場)						
CONTRA RADIUS HEALTH INC		—	4,757	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
合 計	株 数	116,045	281,258	1,168,889	155,836,343	
	銘 柄 数 < 比 率 >	60	61	—	< 98.7% >	

(注) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率です。

(注) 株数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) 一印は組入れがありません。

○投資信託財産の構成

(2023年4月13日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 155,836,343	% 98.6
コール・ローン等、その他	2,133,134	1.4
投資信託財産総額	157,969,477	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) 当期末における外貨建純資産(156,023,861千円)の投資信託財産総額(157,969,477千円)に対する比率は98.8%です。

(注) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=133.32円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年4月13日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	157,969,477,974
コール・ローン等	2,133,134,322
株式(評価額)	155,836,343,652
(B) 負債	13,708,918
未払解約金	13,680,000
未払利息	5,330
その他未払費用	23,588
(C) 純資産総額(A-B)	157,955,769,056
元本	17,961,973,985
次期繰越損益金	139,993,795,071
(D) 受益権総口数	17,961,973,985口
1万口当たり基準価額(C/D)	87,939円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

(注) 期首元本額	7,755,366,620円
期中追加設定元本額	11,742,629,825円
期中一部解約元本額	1,536,022,460円
(注) 1口当たり純資産額	8,7939円
(注) 期末における元本の内訳	
ビクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなし	16,591,273,063円
ビクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなし	976,924,368円
ビクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース	290,539,061円
iTrustバイオ	103,225,602円
ビクテ・バイオ医薬品ファンドII(適格機関投資家専用)	11,891円

○損益の状況 (2022年4月14日～2023年4月13日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	748,927,717
受取配当金	737,568,895
受取利息	3,722,040
その他収益金	8,719,826
支払利息	△ 1,083,044
(B) 有価証券売買損益	8,445,246,896
売買益	18,812,004,744
売買損	△ 10,366,757,848
(C) 保管費用等	△ 28,868,727
(D) 当期損益金(A+B+C)	9,165,305,886
(E) 前期繰越損益金	53,197,346,882
(F) 追加信託差損益金	89,168,400,175
(G) 解約差損益金	△ 11,537,257,872
(H) 計(D+E+F+G)	139,993,795,071
次期繰越損益金(H)	139,993,795,071

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

委託者の商号変更に伴い所要の約款変更を行いました。